

<h1>議 事 録</h1>	作 成 日	2020年2月3日
	作 成 者	千種 隆昌

会議名	第1回多世代共生型施設建設等準備委員会
日 時	2020年1月29日(水) 10:00~12:00
場 所	桑名市総合福祉会館 2階 生活相談室
出席者	委 員 : 長谷中委員長 加藤委員 田上委員 栗田委員 水谷委員
	事務局 : 加藤常務 竹内局長 山下法人統括マネージャー 水谷係長 千種
欠席者	藤原委員

議事概要
<p>1. 挨拶 (山中会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江場から、伝馬公園、現在地と二転三転したが、最終良いところに落ち着いた。 ・ようやく施設建設にむけた準備委員会を開催することが出来て嬉しく思う。 ・建てるだけでなくきちんと運営していくことが大事。しっかり準備していきたい。 <p>2. 委員委嘱</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委嘱状を机上配布。 <p>3. 委員紹介</p> <p>4. 委員長・副委員長の選任</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員長：長谷中委員 副委員長：藤原委員 <p>(長谷中委員長挨拶) 福祉ヴィレッジは他と対立するのではなく win-win の関係で桑名をより良くしていきたいという発想。関係機関、委員、行政、社協などの色々な想いを大切にして、理想を実現できるようにしていきたい。これまでに公民連携ですすめてきた様々な方の想いが詰まっている。全員参加型で本委員会と作業部会が一体となって、より良い桑名にむけた福祉ヴィレッジを検討していきたい。</p> <p>5. 議事</p> <p>(1)多世代共生型施設整備事業の概要について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料2に沿って事務局より事業概要について説明。 ・資料3に沿って委員長が社協としての事業基本構想(コンセプト)紹介。以下注釈。 <ul style="list-style-type: none"> ・前提として、福祉ヴィレッジは国の政策として示された地域共生型社会、全ての人が安心して住み続けられる社会の実現を体現しようとするもの。 ・桑名市では高齢者を中心とした地域包括ケアを先駆的に整備してきたが、最近は高齢者に留まらず、障害者、子どもたちにも地域包括ケアの仕組みを広めている。 ・そのために市組織の改編や、なんでも相談センター、市民の地域活動拠点整備、社協では、文化スポーツ部門を統合するといった連続性の中で今の福祉ヴィレッジがある。

議事概要

- 単体で考えるのではなく、桑名全体の視点。社協の今ある拠点も含め、福祉ヴィレッジに何を持ってこないといけないのか。あるいは地域には多数保育園がある中で福祉ヴィレッジの保育園にはどんな役割が求められるか。ここに何が必要なのか、そんな視点で議論することが前提として必要。
- 福祉ヴィレッジの営みを起点として桑名市全体に効果を波及させていけるよう、この場では桑名市全体のことを考え、それぞれのお立場からご議論いただきたい。
- 図1は全体概要について。目指すもの（コンセプト）は、あらゆる人をつなぎ、誰もが安心して暮らし付けていく地域共生社会を作っていく拠点となること。つまりこの福祉ヴィレッジで完結するのではなく、地域全体に効果を波及し循環させていくイメージ。
- 拠点には2つの意味がある。「身近な安心創出」と「繋がり創出」。
- 身近な安心創出は、施設を利用している方達に安心を届ける、今の支援の機能を維持するだけでなく充実、より安心感を作っていく、図の総合相談支援中核拠点のこと。
- 繋がり創出は、多世代交流のまちづくりの中核の拠点施設と書いてあるが、ここを起点に色んな人、特にここで焦点を当てているのは福祉分野と接点のない人。これまで無知、無関心だった人に福祉や障害のことを知ってもらい、相互理解することでみんなが幸せになっていく、その繋がり作りの拠点としての役割を指す。
- 特に大事なのは、こういう場では福祉や障害のことを共通言語で話せるが、世間一般で考えると、ボランティアしている人は少数派。普通はボランティア行くよりも趣味娯楽など楽しい方へ行く。それで何もしないでいると、繋がりなく分断を助長し、無知や無理解によって差別や偏見につながっていく。拠点があることで、まずいろんな人がつながる。次いで理解共感を広めていく。若い人たちも気持ちはあるが経験する場がない。場があれば参加してもらうことが出来る。そういった繋がりから、関心を喚起し、地域共生につなげていく。
- こうした理念、目標実現のために4つの柱がある。「利用者一人ひとりに合った最適な支援環境」「全世代・多機能型支援」「共生のまちづくり」「人材の育成・研修」。
- 今江場にある各施設をただ持ってくるのではなく、+ α でより充実した機能や何か新たな仕掛けも必要。そのキーポイントになるのが、公園、店舗、地域交流スペース。
- 社協の強みを活かしながら支援の仕組みを地域全体でシェアすることで豊かな社会になる。
- シェア=いろんな繋がりを作ることで、お互いに顔の見える関係ができ、個人の尊厳が尊重され、互いの多様性を認めあえる。結果、地域共生社会を実現することに繋がる。
- 図2について、どのように好循環を巻き起こしていくかを記載。
- 福祉ヴィレッジを起点に、ここだけで完結するのではなく、例えば地域交流スペースを活用して市民の皆さんや企業、行政と一緒に行動できる場を作ることで、共助、インフォーマルの強化を図り、分野を超えた包括的な支援を広めていく。
- 図3-1は、なぜつながりが必要かを明示。「この指とまれ」といっても誰もが止まってくれるわけではない。人は環境によって変わる。環境を変えることによって人の意識・行動を変える。
- 典型的な例は、今の高齢世代は、障害児が保育園小学校に行くことは当然でなく、むしろ義務教育に通わなくても良いというのが普通の考えだった。こうした無知・無理解・他人事

議事概要

が差別、対立、分断につながっていく。

- ・繋がりがあって初めて理解していく。社会の環境を変えていく必要がある。
- ・幼い頃から障害のある方と関わりのある方は人権意識の高い方が多い。
- ・人は理性よりも感情が上回る。感情を揺さぶるようなつながりの仕掛けが大切。
- ・図3-2は、では繋がりをつくるにはどんな環境が良いかを明示。
- ・あらゆる人たちがつながっていく、公民連携で複合的でいろんな仕掛けを作っていく。それが新しい福祉の形になっていく。利用者同士、地域住民、多職種がつながることによって安心や地域共生社会を作っていく。
- ・福祉ヴィレッジで人がつながってそこで終わるのではなく、地域に帰ってつながりの仕組みをまた広めていける、そういった地域のあらゆる人達がつながっていく仕掛け、あるいはここに来なかった方達をどうつなげていくかのアイデアも大切になってくる。
- ・図4-1は、仮称基幹型児童発達支援センターのイメージとコンセプト。
- ・子どもと保護者と一人ひとりに沿っていくのがベース。
- ・保育所と療育センターはそれぞれ役割分担するなかで互いに弱みもあった。例えば保育所での障害児の受け入れが難しい部分など。また多職種の連携は、建物が別々ではなかなか難しい。
- ・保育所と療育センター、それぞれに弱みと強みがあるなか、弱みが強みに、強みがより強みにすべく、両者を統合化（規範的統合、空間の統合、機能の統合）し、お互い一体となって他の保育園、幼稚園とも連携しながら市全体の保育の質を高めていく。
- ・図4-2は、統合化による効果を明示。最終は、障がいの有無に関わらず、子どもも保護者もともに育ちあう、一人ひとりに寄り添うことを実現する。

○委員

本委員会の位置づけは？

○事務局

理事会、作業部会と連動し、本委員会で具体案をまとめ、理事会に提案していく。

○委員

資料3の図1左、福祉ヴィレッジと真ん中に記載されているが、ここには「職員」がくるように思う。職員がどういう風に関わるのか、多世代共生と言う中で本当に繋がれるのか、職員の確保・育成はどうなるのか、多職種での連携はさらに地域に入っていくと難しい。これまで別々にやってきた中で本当につながるのか。職員に相当な覚悟が必要。育成の部分は明確にした方が良く、資料4-2からもかなり多くの専門職がいる。今の段階では、職種間で重なることはあっても仕事内容は施設ごとに別々。それが一緒になった時、理念通りの体制が構築できるか若干の不安。

また、この事業は公設公営、公設民営どういった運営方法で行うのか。行政との連携はどのように行っていくのか。

○委員長

職員については、本当に有機的に連携できるか、人材育成、情報共有がうまくいくかについて、事務局でも検討している。同法人内だからこそ連携し易いという面もあり、今後更に

議事概要

事務局内で具体的に連携しやすくなる仕組みを検討いただきたい。

行政との連携についても作業部会などで議論していきたい。桑名市はわりと行政と社協が一体的、ONE TEAM のような形でいろいろ言いやすい関係にある。今後もより良い関係を強化していくためにどのような取り組みが必要なのか検討していく必要がある。

○事務局

福祉ヴィレッジの施設と店舗は民設民営、地域交流スペースは公設民営を予定。

○事務局

まず保育園を視察した。調べていく中で、多世代共生施設というキーワードが出てきた。

1つの場所で行うのは理想と感じ、次いで社協で運営できるか考えた。今いる職員と新たに入ってくる職員と一緒に機能するか。多世代共生施設の良いところは、利用者だけでなく職員も交流できるところ。社協内にプロジェクトチームを立ち上げ、壁をなくすことができるかから話し合った。現在は建物図をメインに話しているが、これまでには職員一人ひとりがどのような支援をしたいか、サービスを提供したいかが話し合ってきた。桑名市社協は三重県の中でも大きくなり、いろんな職種がありいろんな考え方を持つ職員がいる。自分の中では実現できるとだんだん思ってきている。この事業をすることによって、新しい出会いにも恵まれた。保育園など社協になかった分野のことも知ることが出来た。保育士だが介護の仕事もできる、介護士だが療育センターの支援にも入れるような、職員間の壁も、利用者さん同士の壁も、サービスの壁も皆様のアドバイスを頂きながらなくしていきたい。

○委員

難しいかなと感じた点をあえて発言した。頑張ってもらえる、大丈夫と感じた。そういった気持ちを持っているのであれば何も言う事は無い。

○委員

現在名称が（仮称）福祉ヴィレッジのままだが、今みんなの気持ちが福祉ヴィレッジに向かっているところなので、みんなで何か別の名前にできないか。そうすれば、もっとみんなに関心を持ってもらえるのではないかな。

○事務局

こんなふうに向かっていくだというものが分かるようなキャッチフレーズのようなものがあると良い。

○委員長

こういうのを作りますよと言うのではなく、皆さんの思いを入れて進めていく形で作っていくやり方。計画からみんなでやっていく形が良い。

○委員

市で運営してうまくいかないことを民間がやってもうまくいけるか。丸投げされると大変になるのでは。行政との事前調整が重要。業務上、療育センターの利用について相談を受けることも多い。今はリハビリをやらしてもらえないとの声を多く聞く。やってみたが出来なかったでなく、しっかりと運営出来るような形でやってもらいたい。

○委員

議事概要

リハビリの件は何度か市へ要望しているが後退しているような感じ。

○委員

利用者の立場からすると、聞き取りとかをする場合、声の大きい方の意見が目立って、その意見がみんなの声と言うふうになってしまう。アンケートをとってもらえるとありがたい。子どもを預けて楽をしたい親の声が大きくなりがち。

○事務局

桑名特別支援学校の行政と語る会に参加した際、元PTA会長より、放課後クラブが開始当初は2～3カ所だったのが現在20カ所ほどになっていて、預ける時間も長くなり子どもと関わる時間が減っている保護者が多くなっていると聞いた。子どもが大きくなったら困るのではと危惧されていた。療育のあり方を民間としてやれる部分をしっかりやっていきたい。鈴鹿の療育センターからも来ていただく予定。事業所に任せきりではいけないと考えている方もいるように思う。桑名市で良い療育を展開し、大人になったら支援者につながっていく形が理想。

(2) これまでの経過及び現在の活動状況について

- ・資料4、5に沿って事務局より説明。

○委員

2階平面図について。母子支援施設はどこか？

○事務局

黄緑が母子生活支援施設のエリア。黄色が養護老人ホームのエリア。
養護老人ホームの部屋数は1階、2階と合わせて50室。

○委員

駐車場がこの台数必要か？

○事務局

職員の駐車場も含んでいる。1枚目の配置図で向かって左側が職員、公用車の駐車場。
ここでも足りないため、お客様用の中央駐車場一部も使用予定。

○委員

母子生活支援施設の居室にトイレはついているか？

○事務局

現在の図面には記載はされていないが各部屋に設置される。

(3) 作業部会の設置について

- ・資料6に沿って事務局より説明。

(4) 事業スケジュールについて

- ・資料7に沿って事務局より説明。

議事概要

○委員

今後住民説明会は開催されるのか？今のご時世、保育園や福祉施設の建設には世間の逆風が強い。地域住民への対処が必要になってくるのでは？

○事務局

3月市議会にて関連予算の承認を得て、3月下旬から4月初旬に市主催で住民説明会を予定している。事業のコンセプトは市が説明する予定。今後説明会を重ねるごとに、事業内容の詳細へと内容のステージが変わってくれば社協が前面に出ていく。既に昨年10/26、27に松ノ木、星見ヶ丘で住民説明会を開催したが、以前の伝馬町の時とは雰囲気の違い総論賛成の状況。

6. その他

(1) 今後の会議日程について確認。

第2回：2月 6日（木）10時から 総合福祉会館

第3回：2月19日（木）10時から 総合福祉会館

(2) 榑船井総研へのコンサルティング依頼について報告。

以上